

平成20年度秋期 システムアナリスト試験分析速報

2008.10.20 (株)アイテック 情報技術教育研究部

1. 試験全体講評

今年のシステムアナリスト試験は、午前、午後、午後とも大きな傾向の変化はありませんでした。オーソドックスな問題が多く、全体として、対応しやすい問題でした。少し注目すべき点としては、午後で組込みシステムに関する問題が出題された点です。これは来年以降の試験の傾向を先取りした問題と捉えて良いのではないかと思います。

2. 午前試験講評

今年も過去に出題された問題が多く、出題傾向に大きな変化はありませんでした。目新しい問題としては、問39のJIS Q 27002、問40のUCS-2、問42の収穫戦略、問44のインバケット、問47の税効果会計について問う問題を挙げることができます。前半のコンピュータシステムおよびシステムの開発と運用に関しては、過去問も多く、比較的やさしい問題だったと思います。

3. 午後 試験講評

問1から問3までは、問題文のヒントの場所が分かりやすいオーソドックスな問題でした。これに対して、問4はシステムアナリストにとってはあまり馴染みがない可能性が高い組込みソフトウェアに関する問題ということと、問題の内容自体も問題文と設問の関係がそれほど明確でないという点で、対応が難しい問題だったと思います。次に各問題を簡単に講評します。

問1 業務のアウトソーシングとASPサービスの導入

経営企画部主導の業務アウトソーシングとASPサービスの導入に関する問題でした。経営改革の方針に基づく設問になっており、経営的視点からの解答が求められています。設問の内容は問題文にヒントが書かれていますが、どのような観点から解答すべきか迷う設問が多いので、解答の視点をしっかり定めて解答する必要があります。

問2 住宅用の機器販売会社における販売管理システム再構築

試験によく出題される機器の販売と修理やフォローに関する問題でしたので、業務の概要も把握しやすかったと思います。設問の内容も、問題文のヒントをしっかりとつかんでいれば、容易に解答できるものがほとんどでした。今回の問題の中では、最も解答しやすい問題でした。

問3 物流業務請負に伴うシステム改善

配送計画やCO₂削減に関係する問題で、普段はあまり馴染みがないシステムに関する問題でしたが、設問の内容は問題文にヒントが分かりやすく書かれているので、比較的対応しやすかったと思います。納入先での検品や棚割が絡む設問がありましたが、これらについては若干の業務知識があった方が解答しやすかったかもしれません。

問4 組込みソフトウェアのアーキテクチャと開発体制の見直し

これから出題の増加が予想される組込みソフトウェアに関する問題でした。問題文にヒントはあるのですが、設問の内容と問題文に記述との関連が、それほど明確ではなく、どの観点から解答するか迷う設問が多くありました。今回の問題の中では一番解答しにくかったのではないかと思います。

4. 午後 試験講評

問1と問3は過去にもよく出題されているテーマなので比較的対応しやすい問題だったと思います。問2はチェンジマネジメントという比較的新しいテーマでしたので、他の2問と比較すると、取り組みにくい問題でした。

問1 情報技術を活用した労働生産性向上のための新たな業務モデルの定義

情報技術と経営改革や業務改革を関連させる問題は過去にも何度か出題されていますが、今年は労働生産性向上と関連させて述べる点が特徴でした。しかし、経営改革や業務改革は、労働生産性の向上と関連するケースが多いので、情報技術と労働生産性の関連さえ明確に述べる事が出来れば、解答しやすい問題であったと思います。

問2 情報システム導入の際の業務革新を支援するチェンジマネジメント

チェンジマネジメントという言葉を知らないと、少し選びにくい問題でした。しかし、チェンジマネジメントに関する具体的な内容が問題文にはっきりと例示されているので、これを頼りに解答することは十分に可能な問題でした。

問3 システム化全体計画の策定

午後 の定番であるシステム化全体計画に関する問題でした。しかも、内容の制約があまりないので、用意した論文が使える可能性も高く、非常に対応しやすい問題だったと思います。個別のシステム化計画でなく、全体計画という視点を強調できるかどうか、良い論文になるかどうかのポイントになります。

以上